

旭市総合戦略評価委員会

議事録【要約】

開催日時：平成30年10月3日（金）13：30～15：49

開催場所：旭市役所本庁舎3階委員会室

○ 出席者

《委員》

飯島 隆太 委員	出	石上 弥耶 委員	欠	石毛 みさと 委員	欠
石見 千賀子 委員	欠	向後 嗣一 委員	欠	小関 友紀子 委員	出
椎名 正剛 委員	出	嶋田 明範 委員	出	城之内 和義 委員	出
田邊 波津枝 委員	出	林 英光 委員	出	詫間 堅司 委員	出

《事務局》

旭市：（企画政策課）阿曾課長・柴副課長・林副主幹・林副主査・
醍醐副主査・坂尾主事

○ 資料

- 資料1-1 重点施策マネジメントシート「地産振興プロジェクト」
- 資料1-2 重点施策マネジメントシート「子宝育成プロジェクト」
- 資料1-3 重点施策マネジメントシート「故郷創出プロジェクト」
- 資料1-4 重点施策マネジメントシート「安心形成プロジェクト」
- 資料1-5 重点施策マネジメントシート「旭市生涯活躍のまち構想」
- 資料2 地方創生推進交付金事業の効果検証について
- 資料3 基本施策評価シート

○ 会議内容（要約）

1 開会

事務局 出席に対してのお礼、委員の出欠席等。

事務局 課長挨拶及び事務局紹介。

2 説明及び評価

林委員長 委員長挨拶。
事務局からの説明を求める。

事務局 評価の前に会議の主旨について説明を行う。また、今回の会議については、今年K P Iを設定した旭市定住自立圏共生ビジョンの評価についても併せて評価いただきたい旨説明。
評価の主旨は、効果・検証を行いPDCAサイクルを確立するためであり、会議の意見をマネジメントシートに記載し、ホームページで公表したい。
シートの意見記入欄には、会議での意見を整理して事務局で記入させてもらいたい。

林委員長 事務局一任についての確認をしたい。
(異議なし)

事務局 重点施策マネジメントシートの構成について説明。
資料1-1に沿って地産振興プロジェクトの重点施策マネジメントシートを説明。

林委員長 質疑・意見を求む。

委員 道の駅の来場者は地元とそれ以外はどちらが多いか。どのような割合になっているのか。

事務局 把握する手段がないため、来場者がどこから来ているかわからないが、車のナンバーと見ると、普段は市内からが多いが、休日は市外からも来ている。割合は、市内7、市外3くらい。

委員	道の駅は、あれだけの施設であるので、もっと人が集まっても良いと思う。旭は、農業生産額全国6位であるのだから、もっと農業を前面に出した方がいい。生産者、出荷者が限られてしまっているように感じる。道の駅に商品を置く事によって、PRにつながる。もっと活用すべき。この倍売れてもよいのでは。
委員	都市部から来た方から、旭は魚がないと聞きました。本当はあるのに。魚がないのは寂しい。
事務局	出荷者は随時申請してくれれば、ルールに基づき登録することができる。魚については、農地の真ん中に道の駅を作った都合上、塩水を流せないという問題があり、断念したとのこと。
林委員長	漁港の近くに第2の道の駅をつくってみるのはどうか。
事務局	今のところは、今ある道の駅をもっと盛り上げたいと思う。目標は10億円と市長が言っていた。また、職員を、道の駅が盛んな九州へ視察に行かせた。そこで見て学んできたことを、フィードバックし、今後、道の駅をより良いものにするために研究していきたいと思っている。
林委員長	どうして大手は出荷し難いのか。
委員	規模の大きい生産者は、出荷の単位が違う。道の駅に出すとすると、小出しにしなければならず、手間がかかってしまう。
林委員長	道の駅は、大手ではないところが活躍できる場でもあるということになるのか。
委員	仕事を辞め、農産物を作り始めたという方も結構いるので、そうした方たちが出荷できるので良いことだと思う。
林委員長	例えば、第2季楽里を考えたとき、ひとつのものが大きく巨大になるよりも、小さなものが連携をしっかりととって、つながることがこれからの店舗のやり方だと思う。それをまた検討いただけ

ればと思う。

委員

第2季楽里というお話があったが、先日、旧中学校の跡地検討に参加した際、周辺に食堂や水産物を扱う場所があった方が良いのではないかという意見が出た。そのあたりを絡めてみるのはどうか。

事務局

確かに、旧飯岡中学校跡地について、西側にサッカー場、フットサルとテニスコートを兼ねたような施設を作り、テニスを主に、スポーツ合宿が成り立つように観光地化して、宿泊施設が成り立つようなかたちにもっていきたいと考えている。委員からの意見で、旭は磯カキが有名ですので、カキが食べられるようなところがあってもいいのではないかとの意見があった。そのような話があったので、先日、漁協の方に、そうした施設を作った場合、漁協で経営してくれるかと打診に行ってきたところ。先ほどのお話で、道の駅についても新鮮な魚を出すことができなかったが、旧飯岡中跡地についても、排水に難があるということだった。やるのであれば、やはり漁協の近くが良いのではないかと考えている。九十九里でも、市役所で作った海の駅があり流行っていたが、2回目の視察に行った際、2階にあった食堂の3軒中2軒が閉まっている状況だった。その理由は、漁協の方で港の近くに食堂をつくり、そちらがとても流行ってしまったためだそう。そうしたことから、漁協が直接魚を売りにしてやると人気が出るという認識がある。

林委員長

第2季楽里はスポーツ公園と加工した商品を中心に、漁協の方は、新鮮なものとすれば、道の駅と合わせ3つが揃えば、それらが連携してひとつの大きな考えになり、全国から人が集まってくるようになると思う。単品でという時代は終わったと思う。連携が必要。そういう時代。

事務局

まだどうなるかわからないが、旧飯岡荘、今の潮騒ホテルに平置きの冷蔵庫がある。そこで、加工品などが扱えると思うので、話をして、観光に対する力を発揮してもらうなど、その辺の話を進めていかなければならないことは認識している。

-
- 事務局 資料1－2に沿って子宝育成プロジェクトの重点施策マネジメントシートを説明。
- 林委員長 質疑・意見を求む。
- 委員 婚活について、市役所で様々なイベントをやっているが、当の市の職員が30代で独身の方もいるよう。職員を優遇しても良いので、積極的に婚活してはどうか。子どもも1人、2人とせず、もっといてもよいと思う。そうしたことを積極的に進めてもらうことで、市民も積極的になるのではないかと思うがいかがか。
- 事務局 プライバシーもあるので難しい部分はある。当然、市職員、中央病院もそうだが、特に、中央病院については若い女性が市外から多く来ていることもあるので、なるべく旭に定住してくれるように誘導していければと思う。工夫をしていただきたいと担当課にも伝えたいと思う。
- 委員 婚活イベントの関係で、女性参加者が定員に達していないとあったが、今日、たまたま婚活イベントの担当課でイベントの案内をいただいた。そこには、男性は会員のみ、女性は誰でも、との記載があったが、会員というのは男性だけなのか。
- 事務局 会員については、男女とも会員登録している。
- 委員 男女の会員の登録数の割合はどれくらいか。
- 事務局 男性330名、女性163名の合計493名の方に登録いただいているとのこと。女性を集めるのに非常に苦労している。女性については、他市町村からの参加も認めている。また、男性の会員というのは、旭市在住の方のみ。
- 委員 会員だと、いつも同じ人ばかりになってしまうのではないか。
- 事務局 いつも同じにならないよう、年齢等で分けてグループを作るなど
-

して配慮している。

委員 地元にお嫁に来て、というスタイルばかりだと参加しづらいように感じる。一度そういうものを取っ払って、もっとオープンにしても良いのではないか。

事務局 3市合同で実施している婚活イベントもある。

委員 婚活というと女性は参加しづらいと思う。名称を変えるとか、女性の多いところに声をかけるのが良いのではないかと思う。女性には、フリーに、気軽に参加してもらった方が良いと思う。堅苦しく考えず、まずはお友達作りから始めると良いのでは。気軽に参加できるようにすれば良いと思う。

事務局 資料1－3に沿って故郷創出プロジェクトの重点施策マネジメントシートを説明。

林委員長 質疑・意見を求む。

委員 平成29年度に人口が大幅に減っており、外国人が減ったためとあるが、外国人が減ったのはどうしてか。

事務局 2年くらい前に、豊畑の熊野神社の前にたつみ会館という建物があった。そこに、研修で訪れたベトナム人が入れ替わり立ち替わりで300人くらい住んでいたが、そこが研修の宿泊施設として廃止になり、匝瑳市へ移ってしまったとのこと。そのため、外国人が減ったと思われる。

委員 定住促進奨励金交付事業とは、どういうことをやっているのか。

事務局 旭市へ転入後、1年以内に住宅を建てるか、中古住宅を購入した場合、昨年度までは1件当たり50万円を交付していた。旧旭市民で、3年以上他市町村に住んでおり、旭市に戻ってきた場合も対象になる。平成30年度より、交付額を増額し、子育て世代に手厚くなるように制度改正をした。基本交付額を30万円とし、

若い子育て世代で子どもがいる場合、交付額の加算をするなど、最高110万円まで交付が可能となった。これまで、近隣だと匝瑳市が最高交付額を100万円としており、いちばん充実していたが、それを上回る改正となっている。

委員 周知があまりないと思うし、転入して1年以内に家を建てるのは難しいのではないかと思った。

事務局 現行の制度としては、建てて登記をしたのが転入日から1年以内となっている。そのあたり、改良の余地があるかもしれないと、私どもも認識はしている。しかし、例えばそれを改正して1年を2年にした場合に、3年、4年でも良いのではないかとか、区分けが難しくなってしまうことから、そのあたりは今回かまわずに金額の改正をした。委員が言うのもごもっともであると思う。また、周知については、旭にも住宅公園があるが、業者への周知と市民生活課で転入があった場合に、資料を渡している。

委員 総額が上がったのはうれしいが、新婚で1年以内に家を建てるのは難しいと思う。

委員 (2)の③ですが、ホームページアクセスについて、必要な情報はパソコンではなく、スマートフォンで調べるため減少したと書いてあるが、スマートフォンで閲覧した数は入っていないということか。もしくは、スマートフォンでは見られないということか。

事務局 ホームページのアクセス数は、パソコンとスマートフォンの合算となっている。③の数値目標の部分については、基準値に対して減少したと思われるということで記載をしている。こちらの件数は、あくまで市のホームページを経由していない場合はカウントされないとのこと。さらに、パソコンで見られている情報でも、一部スマートフォンでは見られない部分もあるため、パソコンで見られるものは、スマートフォンでも見られるようにすることが課題だと考えている。ただ、SNSにリンクを貼り、トップページにとぶようにしているため、昨年よりは閲覧数が伸びているとのこと。

-
- 委員** 若者は、スマートフォンで見ている。市で行っている創業支援や定住促進奨励金、子育て支援、婚活の情報などがスマートフォンでまとまって見られるようなポータルサイトはないのか。分散して載っているのか。
- 事務局** 市のホームページの一部ではあるが、「あったか！旭」を作っている。それについては、完全にスマートフォン対応となっており、移住・定住であるとか、子育て支援などの情報を集めて、申請書などの情報も取り出しやすいようなかたちで工夫したサイトとなっている。
- 委員** SNSとの連携を引き続きとあり、とても良いと思うが、ぜひ、引き続きをさらにもっと強めるようなかたちでお願いできればと思う。先ほどの創業支援、子育て、婚活などの情報をSNSで具体的に載せたうえで、「あったか！旭」に集約して注目度を上げてもらえると思う。
- 事務局** ただ今、注目度を上げてというお話がありましたが、グーグルやヤフーの検索のルール変更があったようで、こちらでも業者と相談しているところ。今のところ、具体策がない。
- 委員** ワードをうまく登録できれば、安い費用でも周知はできる。
- 事務局** そのあたりは、さらに研究していきたいと思っている。課題であるという認識はございますので、頑張っていきたいと思う。
- 事務局** 資料1－4に沿って安心形成プロジェクトの重点施策マネジメントシートを説明。
- 林委員長** 質疑・意見を求む。
- 委員** 認知症施策推進事業とは、どのようなことをやっているのか。
- 事務局** 総合戦略の冊子の90ページをご覧くださいと思う。認知症
-

の正しい知識を身につけ、認知症の人やその家族を地域で温かく見守り支える認知症サポーターの養成を行う事業となる。認知症初期集中支援チームを配置し、認知症の早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築していくという事業になる。

委員 よくテレビ等で、市町村によっては防止するための取り組みを行っているところがあると思うが、今、ご説明いただいたのは、認知症になったあとのこと。これから、高齢化社会が進む中で、認知症になった後ではなく、なる前の対策を行った方が、予防をした方が良いのでは。

事務局 そちらにつきましても、総合戦略の91ページにございますが、介護予防に関する普及啓発のため、介護予防教室や講演会の開催及びパンフレット等の配布を行う「介護予防普及啓発事業」や既存の訪問介護・通所介護サービスに加えて、地域の多様な主体による様々なサービスの充実を図る「介護予防・日常生活支援総合事業」がそれにあたる。やはり、予防が大切だということで、高齢者福祉の充実という大きなくりの中で、担当課でテーマを掲げて取り組んでいる。本日も意見をいただきましたことは、さらなる充実を図れるよう担当課へ伝える。

事務局 資料1-5に沿って旭市生涯活躍のまち構想の重点施策マネジメントシートを説明。

林委員長 質疑・意見を求む。

委員 生涯活躍のまちについてだが、事業主体となる民間事業者を公募するとあるが、前回のマーケティング・ニーズ調査や、都内でのセミナーでの反応で、民間事業者に旭でこのような事業をやることは利益になるということ、業者へPRできる要素は見つかっているのか。

事務局 このマーケティング調査に関しては、都市住民、埼玉や東京23区、川崎あたりの10万に対してアンケートを行った。旭の生涯活躍のまちに興味があるかというような意味合いのマーケティング

グ調査となる。そのため、業者に対して情報を提供できるかというのは、10月1日から公募を開始しているが、実際はこういうデータがあり、旭の生涯活躍のまちは、実現したらこれだけのかくれているニーズがあるというようなデータを提供できている。それから、先ほどの移住相談件数だが、都市部で3～4回移住セミナーをやった。最終的には、東京の八重洲から旭の方まで来ていただき、市内の観光スポットであるとか、中央病院、屏風ヶ浦、最後はイチゴ狩りをして帰っていただいた。11～12名のご家族連れであるとか老夫婦に来ていただき、食がおいしいと大変好評なツアーであった。今後も引き続き、市をPRするという意味でも、こうしたことに取り組んでいきたいと思う。マーケティングというよりは、ニーズの把握と言った方が適しているのかもしれないが、それについては、引き続き取り組んでいきたいと思っている。

委員 公募が今月から始まっているということで、既に問い合わせや応募はあったのか。

事務局 まだない。まず、ホームページ上で募集要項を公表し、もちろんプレスリリースも事前にさせていただいたが、ホームページに募集要項等はホームページからダウンロードして下さいと記載しているのので、まず、募集要項をダウンロードし、確認してから質問等がくるのだろうと考えている。まだ、始まったばかりということもあるので、今後、多くの企業様から応募があることを期待している。

林委員長 生涯活躍のまち構想については、中央病院を中心に考えているということだが、先ほどの道の駅の件もそうだが、個々のプロジェクトがバラバラのように感じる。旭として、それらひとつひとつに関連性を持たせてつくと良いと思う。まちづくりをするときには、他のものと関連付け、つながりを持たせ、それぞれにテーマを持ってつくるのが良いと思う。

委員 この構想は、中央病院のヘリポートの東側ということか。だいたい何戸くらいの住宅が建つ予定なのか。

事務局

先ほど、テーマごとにとのお話があったが、生涯活躍のまちとは地方創生ということで、人口減少にともない、総務省が推奨している施策。その中で、生涯活躍のまちには、医療と介護の連携という大前提のテーマがある。それに付随して、旭市は農業産出額が3年連続全国第6位ということで、中央病院の直線約1kmのところには道の駅があり、さらに、中央病院は防災拠点の病院なので、安心安全ということもふまえて医療と介護のまちづくりをしていきたいと考えている。大きなテーマとしてそのようなものがある。また、何戸の住宅が建つのかという質問があったが、最低何戸というかたちで募集はしていない。それを決めてしまうと、提案できる業者が絞られてしまうことが考えられる。こちらの募集要項の中で、1社でも複数の共同企業体でも応募は可能ですと記載している。1社ですべてできる企業もあるとは思いますが、複数の企業体が得意分野を活かして合同で提案してくる場合もあると思う。複数で応募してくる場合には、バランスの取れたものができるのではないかと考えている。募集要項にも記載していますが、提案後、プレゼンをしていただく。その後、評価委員会にて、どの提案が最も市のためになるのかを点数をつけていただき、最終的に決定する。なるべく多くの皆様にご提案していただきたいので、応募要件はある程度広くしている。まずは提案していただき、その後検討していきたいと考えている。

林委員長

住み方もいろいろあると思う。例えばシェアハウスとか。これから高齢化の時代なので、どのようになっていくのかということもテーマになってくると思う。いくつかそのようなことを考えたうえで、募集するという方向もあるのではないかとと思う。旭らしいものをやったら話題になると思う。

事務局

先ほども申し上げたとおり、医療と介護というテーマが大前提となる。後ほどホームページをご覧くださいと思うが、医療としてはこういう機能があったらいい、住居としてはこういう機能があったらいいということを、市としてある程度示している。そして、プロポーザルを行うにあたって、ある程度誘導するために、こういうものを提案していただくと点数が高いですよというよう

な評価基準をホームページで公開している。医療と介護との連携というものがある中で、医療だけ、介護だけといったように、どちらかだけでは点数が取れないし、全く関係のないものではもちろん点数は取れないということになる。そのあたりは、ある程度、民間企業を誘導するために載せてある。介護施設であったり、クリニックであったり、そういったものを提案していただきたいという思いがあるので、掲載させていただいている。これがなければ絶対駄目だというわけではなく、幅広く提案していただきたいという思いからそのようにさせていただいている。

林委員長 これから人生100年の時代がくると思う。余生をおくるということも入ってくると思う。

委員 医療と介護が大前提というのはすばらしいと思うが、生涯活躍のまちという意味で人を呼ぶのであれば、働く場がないと人は来ないのでは。働く場を誘致していただく必要があるのでは。今、若い人がまちにいない。大学進学後、こちらには戻って来ない。こうした現状がある中で、人を呼び込もうと思ったら、医療と介護だけでは呼べないと思う。雇用の場がないと人は来ない。農業産出高全国第6位だからといって人は来ない。

事務局 総合戦略策定時から、そのようなご意見をいただいております。雇用の関係については、生涯活躍のまちに限ったことではなくて、市として考えていくべきことだと考えている。商工観光課でも創業者への支援や雇用対策協議会、異業種交流会などいろいろなものを行っている。実際、雇用については、生涯活躍のまちのセミナーを行った際にも、お年を召した方から年金だけでは移住できないので、アルバイト程度のお給料がいただける就職先を斡旋できるのかという意見をいただいている。そのあたりについては、生涯活躍のまちというよりは、市として窓口、体制を構築していかなければならないと考えている。

委員 市長さんがよく、農業産出高全国第6位ということでお話をされているが、農業経営多角化支援事業は0円となっている。市として何かサポートはないのか。事業があっても使われていないよう

だ。

事務局 こちらについては、PR不足なのか、本当にやる人がいないのかわからない。

委員 匝瑳市は、市が一生懸命やっていると思う。旭市はそういう補助金を使えたと言う話を聞かない。PR不足なのか、具体的なものがないのかそのあたりはわからないが。

事務局 使いづらいということもあるよう。

委員 横芝光町は町独自でやっているようなので、全国第6位を維持するために、市として何か取り組みがあっても良いのではないかと思う。

委員 例えば生産者に補助金を出すとかではなく、旭の農業をどうやって活性化するのか考えた方が良いのではないかと思う。農業といっても生産するだけではなくて、植物の違った使い方もある。そういう部分を引き出すために、5年10年先になるかもしれないが、試験的な部分を大学や農業高校と連携していくのも良いと思う。現在農業産出高が全国6位だが、今後停滞していくのではないかと思う。5年10年先はこのまま伸びていくとは限らない。これからの農業を目指して、次は何をやるかを考えたり、あるいは、大学との連携などを考えていく場所も必要。これも地方創生だと思う。このままでは尻つぼみになってしまう。

林委員長 駆け足で進めてしまったところもあるので、全体を通して何かあるか。

委員 資料1の1で、開発法人の年間件数についてですが、新しくできたものもありますが、なくなったものもあります。なくなった件数を把握した方がよいのではないですか。

事務局 手持ち資料がないので、後ほど確認する。

委員	人口を増やしていかなければいけない中で、このままだと自然に人口は減ってしまうと思う。国もやっているように、これから外国人の方がたくさん入ってきてということになると思う。旭市として、外国人の受け入れに当たって、何か施策はあるのか。
事務局	今のところはない。
委員	外国人の技能実習生は増えているのか。
事務局	聞くかぎりでは、増えていないと思う。
委員	国と連携してやっているEPAというものがある。その方たちはレベルも高く、日本語も勉強してきている。
事務局	外国人の雇用に関しては、農業だけではなく医療や介護など、資格があれば在留期間が延びるとかあると思う。こちらでもそうした制度があることは把握している。人手不足といわれる中で、ここ最近では、外国人の雇用が大変重要になってきているので、積極的に勉強し、取り組んでいかなければならないと考えている。
事務局	旭では、外国人雇用が水産業の部分で多くいると聞いた。農業でも、ハウスで花や農産物を作っている農家で雇用しているとのこと。そのような農家の方からは、研修生で研修して帰ってしまうと、戦力にならず、教えるだけで終わってしまうので、それをもう少し長くいられるように制度の改正をしてほしいとの要望があった。農林水産省の方でもそれを変えるように制度の改正が成されたところ。これからは、もう少し長くいられるということで安堵しているところではあるが、農家の方も、生産高を上げている農家の方は、経営をしているという状況なので、外国人の数が重要になってくるとは思う。
委員	何かアクションを起こさなければ、今後尻つぼみになっていってしまうと思う。2020年にオリンピックという大きなイベントがある。ボランティアの募集を始めたところだが、高校生、中学生くらいでもできると思うので、大会期間が夏休みにかかること

からも、子どもたちに参加してもらうのはどうか。市民がボランティアに積極的に参加すると良いと思う。参加することで勉強にもなるし、今後、旭市を引っ張っていってくれるような人材に成長できるのではないかと思う。そのあたりを検討していくのはどうか。

事務局 2020年の東京オリンピックですが、ドイツの卓球チームに対して旭で事前合宿をしてもらえないかということで、市長がトップセールをしてきたところ。直前にならないかどうなるかわからないが、もし事前合宿をやるのであれば、旭で実施する予定になっている。それに期待しており、市民の皆さんには事前合宿のボランティアもしていただければと、担当課の方が申ししていた。また、小学校、中学校の子どもたちについても、練習の際、見に行ってもらうなどして、関わりを持ってもらえればと思っている。

委員 ドイツ語を勉強させるのも良いと思う。

事務局 聞いた話では、ドイツ人は皆、英語が話せるそう。

3 その他

林委員長 その他として、事務局から何かあるか。

事務局 資料3に沿って旭市総合戦略の評価について（基本施策）基本施策評価シートを説明。

林委員長 皆様から何かあるか。

委員 旭にいかに定住してもらうか、人を呼ぶかというところだが、これまで何回も話してきたが、においが気になる。旭は温暖な気候で住みやすいところだとアピールしても、いつもにおいを指摘される。いくらいいところを前面に出し、人を呼ぼうとしても、においの問題を改善しなければかなりマイナスになる。他が無駄になってしまう。いくら職員の方が努力しても、においの問題を改善しないかぎり、人は集まらない。これが現実。この問題に対し

て、こうした努力をしているということを示していただきたい。

委員 旭はとてもいいところだが、都会の人たちにとってこのにおいは無理。私たちは慣れている部分もあるが、何か対策はないのか。他ではどのようなにおいの対策をしているのか。市で補助とかしているのか。第一産業だが、都会の人には受け入れられないところだと思う。これだけ進んでいる時代なのだから、何か改善する方法はないのか。

事務局 においの問題は、市でも頭が痛いところ。議員からも再三質問を受けている。良い対策をしているところがあれば、議員が視察に行ったこともある。良い対策であっても、安定してよいかと言うとそうではないというところもある。今のところ、これといって対策がない。市でも浄化槽の整備に対しての補助をしているが、豚舎そのものからのおいはどうにもならないのが現状。今、豚舎そのものをふさぎ、中をエアコンで温度管理をして育てるとか、そういった対策もでてきているそうなので、臭気が外へ漏れないのではないかと思う。良い対策があれば、市でも補助をしていくようなかたちになると思う。

林委員長 新しい取り組みを受け入れて、あるいはオリンピックまでにこうしたいという目標をもって、養豚業者の方も理解してくれると思うので、何か対策を。そうしなければ、おいしいものがあっても、人口は減るばかりになってしまう。また、景観についても、個々を連携させて、つながりを持たせて整えていったら良いと思う。

委員 市民は何もわからないので、市で対策をしていることを示してほしい。まず、証明してほしい。

林委員長 ポーズでもいいので、見せることが大事。

委員 補助金がないと難しいと思う。畜産業の方に全部を負担してというのは厳しい。補助金があっても、経営自体ぎりぎりだという畜産業の方たちもいるくらいなので。

事務局	策定した当初からお話を伺っており、担当課にも伝えているところですが、なかなか。
委員	初めて都会から来た人は、においの正体もわからない。このにおいは何から始まる。豚舎があって、から説明するが、外に出てにおいをかいだとき大変驚いている。
委員	「くさいまちあさひ」ではまずいし、それは避けたいと思う。こういう評判が、ネットか何かで広がってしまったら大変なこと。
林委員長	付け加えて、旭駅のさみしさはまずいと思う。高齢化が進めば、車の時代は終わる。そうなると、鉄道が重要になってくる。駅は玄関口。
委員	電車を待つ時間をつぶす場所もない。
委員	改札口も一日のうち空いている時間が30分ずつくらいしかない。駅に人もいない。キヨスクもない。駅を降りてほっとするような、花があったり、緑があったり、そういうものがほしい。
林委員長	駅に、文化の杜にある私の作ったモニュメントを持ってきてもいいと思う。
委員	旭の最大の観光資源は海だと思う。海は国、県、市、管理者が別など、かなり複雑に規制がからんでいるので、非常に手を加え難いのはわかっているが、規制をゆるめ、国や県と連携して、他の海と違ったしつらえができれば、旭の新しい魅力になるのではないかと思う。この海はおもしろいと思ってもらえれば、観光客がたくさん来てくれると思う。そうした魅力を秘めていると思う。今後、研究していただければと思う。
委員	それから、宿泊にはつながらなかったと記載があるが、宿泊する場所がないのが問題。
委員	海の方までタクシーでいくと、何千円もかかってしまう。民宿等

が2,000～3,000円くらいであるが、駅から行くとタクシー代が高くなってしまう。街中にビジネスホテルがあれば、もっと発展すると思う。仕事で旭に来るならなおさら。

委員 せっかく落とすチャンスがあっても、泊まるところがなければどうにもならないと思う。サンモールはすぐにいっぱいになってしまう。

事務局 旭の駅前は、50年以上前の設計となっており、車があまりない時代に県の事業でつくられたもの。今となっては、沿線の中でもみすばらしいのではないかと感じている。

事務局 先ほどのにおいの件だが、今の状況は、豚舎や牛舎の建物の整備が中心になっているとのこと。排泄物をためないようにし、浄化槽に流すといった仕組みの施設に補助をしている。今後は、施設に対する消毒であったり、食べ物に混ぜ排泄物自体のにおいを減らしたり、ということに力を入れていきたいと話していた。

林委員長 皆様よろしいか。
それでは、これにて会議を終了する。

【閉会 午後15時49分】
